

若い瞳

豆まき

2月は旧暦で、如月(きさらぎ)と呼ばれ、暦のうえでは春になるが、まだまだ寒さの厳しい季節でもある。

3日は節分、節分は、季節の分かれ目を意味する言葉で、もともとは「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日を指していた。立春の節分に行われる「豆まき」の行事は「追儺」(ついな)

と呼び、中国から伝わった風習である。「追儺」の行事は、文武天皇の時代に宮中で初めて行われたといわれている。鯛の頭を柵の小枝にさして戸口に挿す風習は、近世以降に行われるようになったもので、魔除けのためである。

学校においては、今年度も残り2カ月となり、まとめの時期になってきた。一年の反省をしつかり行いながら、次年度へつなげるための対策を立てていきたい。

うるま市立
平敷屋小学校
幼稚園

発行
校長・園長
高良 孝 志

児童においても1年間の反省をしつかりと出来るように全職員で励ましながら基礎基本の定着を図っていききたい。



読む聞く

現在の子どもたちは、活字離れとともにテレビやスマホ、ゲーム等の視覚に依存する割合が高くなつ

ている。テレビ等は具体的な姿を伴って展開しますので、ぼんやり見ているもストーリーを追うことができず。しかし、話を聞いたり本を読んだりする場合はその場面にひたり込んで自分でイメージを作らなければ、内容を十分に理解することができません。その意味から、学習の場での「読む」「聞く」の指導が重要になります。

話を聞きながらイメージを広げていく力を身につけながら、文字を追いながらのイメージ作りを強化することが必要です。テレビなどは受け身で画一的ですが、読

学校の仕組み⑩ 事務部職員

本校の事務部には四人の職員がいる。県費事務は県職員である先生方の諸手続きや、公文書・出勤簿・転入転出など諸々の仕事がある。県とのパイプ役で教頭、教務と同様に校長の

学校経営になくてはならない役割である。市費事務は給食費、学校消耗品費、必要保護等の手続きなど子どもと保護者に関係する仕事であり、市とのパイプ役である。PTA事務はP

TAと学校を結ぶ重要な役割がある。PTA予算からPTAに関するすべてのことを担っている。事務職ではないが、用務員も学校には欠かせない仕事である。毎日の給食配膳の準備や授業で使うプリントや宿題の印刷等を行う。

いわば事務部は平敷屋小学校の心臓部である。



インフルエンザ

この時期になると流行するのが「インフルエンザ」である。

昨年末から流行の兆しがあり、市内ではすでに学級閉鎖をした学校もある。

インフルエンザ予防に効果があるのはやはり「手洗い」「うがい」で、そして人が多く集まる場所をなるべく避けることである。

もう一つ、睡眠をよく取り、適度な運動と食事である。

朝ご飯を食べないで登校する児童もいるので非常に気になる。やはり食事は健康の源である。

感染したら発熱等で苦しい。やはり予防が肝心。気を付けましょう。



交流

「小1プロブレム」「中1ギャップ」等、進級上の問題が指摘されている。進学した子どもたちは、自分を取り巻く環境の変化に不安や戸惑いを感じて、不適応を起すことがたびたびある。その防止策の一つとして、幼・小・中の連携のあり方を考え直す必要がある。

学校では、入学説明

会を保護者に対して行う時期ではあるが、説明だけでなく、幼稚園・小学校でも交流を行い、その不安を解消することに取組んでいる。

幼稚園児には1年生との交流会や5年生(次年度は6年生になる)が幼稚園に向いての交流を行い1年生に進学したとき世話役となる6年生とのふれあいを重視している。

5年生

この一年で大きく成長した5年生、宿泊学習では青少年の家の職員から「挨拶が上手」と褒められた。校内でも元気がよく明るい学年である。

もうすぐ6年生、平敷屋小学校のリーダーである。学習も難しくなってくるが君たちなら出来る。先生方もそう信じている。がんばれ新6年生、平敷屋小学校の未来を背負う君たちに大きな期待をしている。